

## 会議議事録

会議名	2023年度第1回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2023年7月27日(月) 14:30~16:30
場所	本校1階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：丸山泰一委員(社会福祉法人池上長寿園専門参与) ②本校委員：川口拓也(校長)、松田 朗(介護福祉科学科長) 中嶋純也(介護福祉科教員)、榊原幸之(事務局長)、(計4名) ③オブザーバー：前田律子(副校長) ④委員会事務局：土屋瑠美子 菅谷久美子 (参加者合計8名)
欠席者	戸嶋哉寿男委員(杉並定期巡回連絡会代表)
配付資料	事前送付：資料1：2023年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、資料2：2022年度第2回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料3-1：前回委員会以降の主な経過報告、資料3-2：2022年度就職状況の報告、資料3-3：第35回介護福祉士国家試験受験の報告、資料4：2023年度重点目標と達成するための計画・方法、資料5-1：2023年度介護福祉科学科運営計画・方針、資料5-2：2023年度介護実習予定表、資料6：2023年度教員研修計画・実績(介護福祉科)、資料7：2024年度カリキュラムマップ案
議長	松田学科長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認(資料1) 事務局・土屋より今年度委員の確認及び紹介があった。</p> <p>2. 校長挨拶 川口校長より、この4月より就任した。池上長寿園様とは長いお付き合いをいただき、卒業生も大変お世話になっているとともに、多くの現場の先生方に教壇に立っていただいている。 ここ10年ぐらい、専門学校は質の保証に向けて、出口である業界の方から人材ニーズを聞き取り、それをカリキュラムに反映し、PDCAを回す取組が重要になっている。この教育課程編成委員会は、出口の現状やニーズを聞かせていただくための貴重な機会なので、ぜひ忌憚のないご意見を頂きたい、との挨拶が行われた。</p> <p>3. 前回委員会議事録の確認(資料2) 事務局より諮ったところ、一部の字句及び発言者名の訂正を求める意見があり、訂正後の議事録を個人情報に配慮して公開することが了承された。</p> <p>4. 2022年度の活動報告等 (1) 前回委員会以降の主な経過(資料3-1、3-2、3-3) 榊原事務局長、松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細</p>

は別紙のとおり。

5. 2023 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 4）

川口校長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2023 年度学科教育と学科運営（資料 5-1：学科運営、資料 5-2：介護実習）

松田学科長、中嶋教員より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 2023 年度教員研修計画・実績（資料 6）

松田学科長より、資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。

8. 2024 年度カリキュラムマップ案（資料 7）

松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 次回日程、その他

次回の日程については、候補日の中から了承され、閉会した。

以上

## 2023 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

### 4. 2022 年度の活動報告

前回委員会以降の主な経過（資料 3-1、3-2、3-3）

○榊原事務局長より、資料 3-1 に基づき以下の説明が行われた。

- ・就職状況：就職希望者全員が就職した。
- ・募集状況：現在、日本語学校への訪問を行っており、8 月末までに全てを回れる予定。

○松田学科長より、資料 3-2、3-3 に基づき以下の説明が行われた。

- ・国家試験の合格率は全国平均を上回る 93.3%となった。
- ・合格基準点は 75 点で、難易度はそれほど高くなかった印象を持っている。
- ・気になるのは、福祉系高校の合格率が 92.6%と高いことで、少し意識していきたい。
- ・内定先は、今年度も実習先とのご縁で就職する学生が一定数いた。
- ・留学生の就職活動が積極的で、早い段階で内定をもらったことが特徴的だった。
- ・就職先は、特養が一番多かった。

### 5. 2023 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 4）

○川口校長より、以下の説明が行われた。

- (1) 学生確保：コロナが明けて、介護福祉においては地元志向が強まっていることを感じる。その中で本校の立ち位置を維持する意味で、学生確保を重点に挙げている。
- (2) 社会人・既卒者向けプログラム：18 歳に限らず留学生、社会人の職業訓練生などをしっかり確保していきたい。学校全体として、介護福祉科、看護科などでは 18 歳以外の比率が増えている。多様性に適応していきたい。
- (3) 日本語学校との連携：日本語学校はバブルで、定員増を申請してもなかなか通らない状況だが、日本語教師資格も国家資格化する流れがある。本校は伝統のある日本語学校との付き合いがあるが、そういう学校ほど国費留学生として東大、京大、早慶などに行く留学生も多い。今後はそのルートとは別に、非漢字圏からの受入れに対応していくことが課題と考えている。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
ベトナムの方は現実に少なくなったということか。	日本は学ぶことに関しては安いですが、働くとなると給料の高い国に行ってしまう。
資料によると、重点項目に(4)ハイブリッド型教育もあるが、対面式との割合はどのぐらいか。	今年度、介護福祉科においては感染者が出ていないので、オンラインの授業は行っていない。いつ起こっても対応できるように教材は作っている。
基本は対面型でいく方向か。	今の 1 年生は高校 3 年間、丸々コロナの状況下に置かれていた。直接人と関わる機会が重要だと思うので、極力対面を考えている。

## 6. 2023年度学科教育と学科運営（資料5-1：学科運営、資料5-2：介護実習）

○松田学科長より、資料5-1に基づき以下の補足説明が行われた。（ポイントのみ記載）

### 1. 学科の教育目標及び業界ニーズ

#### 1-2 業界の人材ニーズの動向：

- ・現場で学び続けることができ、挑戦できる人、人を大切にでき、チームワーク、特に介護福祉士として将来リーダーシップを発揮できる人、創造性を発揮できる人を要請することに焦点を当てて日々学主支援を行っている。また、共に何かできるというチームワーク、大きく変わっていく世の中を泳いでいくためにより深く、広く考える力を持って卒業させたい。
- ・1年生は人間関係が良好で、明るく、サークル活動を立ち上げるなど非常に活発である。
- ・2年生は、1年生のときにクラスの中での人間関係に少々課題があったが、改めてチームワーク・チームシップを発揮し、職場でしっかりと仲間と協力して仕事ができることを前提に取り組んだ結果、6月頃より少しずつ成果が上がっている。

### 2. 学科運営計画の定性的目標

#### 2-1 学校としての今年度の教育支援活動目標：

- ・チームシップを掲げ、他者との関わりを通して協働を体験する。
- ・再開された体育祭、学園祭などの学校行事を通して、他者と協力して何かをつくっていくことを具体的に進めていく。
- ・2年生は、2月上旬に行われる事例検討の研究発表会に向けて、仲間と協力し、自分の学びも総括できるような形で準備を進めていく。
- ・他校との比較による学校の強みについては、介護実習について、今年度から地域密着型のサービスに広げていきたいと考えている。

#### 2-2 教育支援活動目標（2つ）：

- ・実践力の修得に向けて、メンバーシップ・チームシップに焦点を当ててやっている。
- ・出口の1つの評価として、「共有」、「協働」、「創造」、「満足解志向」をキーワードに掲げている。
- ・2024年4月から合理的配慮の提供が義務化される。介護福祉士としてもそういうことを分かった上で、リーダーシップを発揮したり適切な配慮ができることを課題として掲げている。

### 3. 学科運営活動の定量的目標

#### 3-1 資格取得目標の設定と結果：

- ・1年生は認知症サポーター、介護福祉士国家試験の模擬試験、2年生は上級救命講習、模擬試験2回、レクリエーション介護士2級の取得を目標に掲げた。

#### 3-2 就職目標の設定と結果：

- ・希望者全員が就職できた。今年度も引き続き100%を目指している。就職活動への意識づけを少し早めてみたが、学生も敏感に反応して、例年に比べて主体的に就職活動に臨んでいる。

#### 3-3 退学率の低減目標と結果：

- ・今のところ退学者は出ていない。

#### 3-4 定員充足のための各種取組と結果：

- ・オープンキャンパスの参加者は少し増えているが、引き続き周知を図るため、高校の進路指導の先生、保護者の方に介護の仕事や介護福祉科の情報を届けるパンフレットの作成を準備している。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<p>座席配置を工夫したことによって成果が現れているが、どのように実施したのか。</p>	<p>1年次にあったクラスの課題をいい方向に持っていくために、環境を整えることを考え、座席配置を少し変えた。サポートが必要な人を中心に、サポートする側とされる側の関係性を考えて、凹凸、ジグザグのような配置とした。</p>
<p>チームシップとチームワークの使い分けについて教えてほしい。</p>	<p>このようなことを大切にしていこうという心構えや考え方がチームシップ、実際のワークを通したメンバーとの関係性、在り方の部分がチームワークという形で使い分けている。</p>
<p>「不偏不羈に基づくコミュニケーション能力養成」とは、具体的にどういうことか。</p>	<p>大事にしているのはとらわれないこと。当たり前だと思っていることを疑ってみたり、視点を変えると見えてくる風景が違うことなどをいろいろな教材を使って学んでいる。</p>

(介護実習について)

○中嶋教員より、資料 5-2 に基づき以下の補足説明が行われた。

- ・実習をコンパクトにすることでコロナ禍の中でも基本的に施設で実習することができた。5類への移行を受けて、今年度はコロナ禍前の実習計画に戻していく。
- ・介護実習Ⅰには、様々な施設を見る、いろいろな方と出会うという目標があるので、8~9月の夏休み期間に1年生の地域密着型実習を新たに追加した。4日間という短い期間なので、事前準備をしっかりして、充実した内容となるようサポートしていきたい。
- ・第2段階の実習は、1年生の学びが終わった後、2月から19日間の予定で行う。
- ・2年生の最後の実習は、コロナ禍の3年間は実績にばらつきが出た。来年度は、最後の実習の前に訪問介護を入れていきたい。
- ・1年生は6月に実習に行き、予定内に終えることができた。
- ・今回、20施設以上の実習先を確保することができた。引き続きご指導いただきたい。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<p>留学生で体調が悪くて自己判断で休んだ学生がいた。5類になったことで、施設側の線引きは変わったか。</p>	<p>5類に移行してから、入り口のところは大分緩和され、実習を受け入れていく形に転換している。ただ、どこの施設でも体調不良のときは休みなさいということになると思う。</p>
<p>難しいと思うが、看護小規模多機能型居宅介護（看多機）もできると、グループホームより勉強になる。</p>	<p>点検も含めてワンストップで安心してサービスが受けられることを具体的に体感できる場だと思うので、実習先として増やしていきたいと思っている。</p>

<p>施設しか実習をしていないと、生活という視点が抜け落ちてしまう。利用者ファーストという意味では実習の段階で地域が入ってくるのは大賛成だ。</p>	<p>地域でどのように暮らしているのかを直接体験できることは何よりだと思う。</p>
--	--

## 8. 2024年度カリキュラムマップ案（資料7）

○松田学科長より、資料7に基づき以下の説明が行われた。

- ・「学びの全体図」は昨年度と同様。座学では、介護福祉士観の醸成と介護過程の展開がしっかりできるようにするための基礎的な知識と技術が重要と考えている。
- ・演習と座学を融合させて、学びの質を高めていく。
- ・「人間の尊厳と自立」を介護福祉士の根幹として学び、卒業時には共有、協働、創造、満足解志向のベースをつくることを目指している。
- ・「人間と社会」の領域にある「情報と社会」、「生きがいと地域社会」が2023年度から2024年度にかけて新設されている。
- ・全体の時間数は1950時間から1980時間に増える。増加分は、学科の強みとして「医療的ケア」の臨地実習ができるような方向で準備を進めている。
- ・課題が達成できたか評価表（ルーブリック表）で自己評価をする。1年生から2年生に進級する際に一度チェックしてもらっているが、卒業時の評価として改めて報告したい。
- ・地域社会との関わりを持つ中で学習機会をつくることに関しては、学校の社会資源化という点で協働できることがないか模索していきたい。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p>豊島区として打ち出している施策はないのか。</p>	<p>例えば本校で2～3時間のものを用意し、豊島区が応募して、集まったら開催する形のオープンスクールというものがある。</p>
<p>豊島区は大学もいっぱいあるので、官との関わりもいろいろあるのではないか。</p>	<p>本校では地域協力を力を入れていこうと考えており、豊島区のボランティアセンターや介護予防センターを訪問したことがある。</p>
<p>大田区では地域連携でどのような取組が行われているか。</p>	<p>大田区は、行政と町会・自治会とのつながりが強く、ボランティアや地域活動については町会が昔から協力している。そこに学校が入ることについては、町工場の技術と大学の専門的な研究をつなげて地域産業の向上を目指す動きから始まり、少しずつ広がりを見せている。</p> <p>地域包括支援センターの活動も、町会や民生委員ときちんとつながっていることが大田区の特徴かと思う。</p>

看護科との合同授業を企画しており、12月に第1回目を行う。訪問の現場で看護、介護が協働していくことをイメージしているが、アドバイスを頂きたい。

専門学校で看護と介護が同じ建物の中にあるところは多分ないと思う。初年度なので楽しみにしたい。

大田区では国の予算をもらい、マンションの部屋を借りて、仮想の高齢者女性のところへ大学の看護学部の学生と介護職の者が入るというプログラムをやった。疾患のほうに目が行く看護師と生活面を考える介護職がぶつかって、すごく面白い。

初めは看護に押されてしまうので、1回では難しいが、だんだん疾病の後ろにある人の生活という面に看護師が気づいてくる。

以上